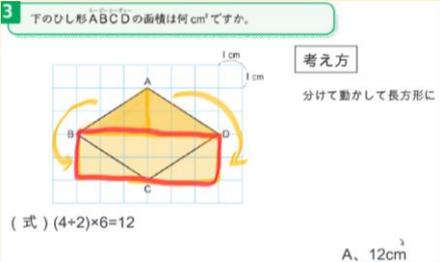
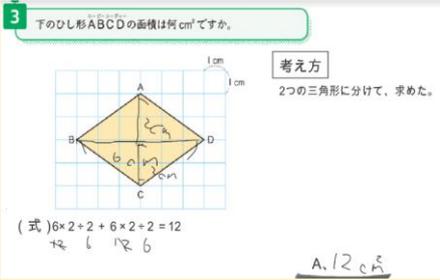


1人1台端末の活用による実践事例 (小・中学校用)

学校名	矢掛町立川面小学校	実践者名	中村 嵩
教科	算数	学年	5年
活用内容	自分の考えを表す 意見交流	実践日	令和3年12月16日
		授業活用段階 (岡山県版)	Stage 2
単元・内容等	<p>「ひし形の面積」 既習事項を活用して、ひし形の面積の求め方を考える。</p>		
活用の概要 (目的・活用場面・使用アプリ名を含む)			
<p>(1) 自分の考えをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> Jamboard にひし形の図形を載せたものを Classroom で個人に配布し、ワークシート形式で活用する。 Jamboard に図形や線や言葉を書き込み、面積の求め方を考える。 			
			
<p>(2) ペアで交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 互いの端末の画面を見せながらペアで考えを説明し合う。 			
			
<p>(3) 全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> クロームキャストを使って児童の考えを大型テレビに提示する。 			
			
<p>(4) 適用問題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> Forms のテストで学習の定着度を計る。 早く回答できた児童には、タブレットドリルのドリルプリントに取り組み、さらに習熟を図る。 			
実践者の手ごたえ		児童生徒・保護者等の主な反応や声	
<p>児童が機器の扱いに慣れ、Jamboard に関してはノートと同様に扱うことができるようになっている。</p>		<p>(児童の様子から) 教科書の問題、Forms での適応題、タブレットドリルと、児童は多くの問題に取り組めたことで達成感を感じていた。Forms のテストですぐに正誤が分かることも学習への意欲に繋がっている。</p>	